

平成 28 年度 県立下館第一高等学校自己評価表（全日制）

No. 1

目指す学校像	○規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養に努め、他人を思いやる心や感動する心など豊かな間性の育成を図る学校 ○一人ひとりの生徒の実態を踏まえた、柔軟かつ多様な教科指導と適切な進路指導により、確かな学力の定着と生徒の自己実現を図る学校 ○自主自立の精神を身につけ、自ら学ぶ意欲と力を育てる学校 ○確かな知識を身につけ、国際社会や地域の発展に貢献できる人材の育成を図る学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>27 年度より重点項目を組み換え、グローバルな視野を備え、国際社会や地域社会の発展に貢献する人材の育成を掲げ、目標を達成するために紫西グローバルチャレンジ事業を積極的に推進してきた。国内留学や海外語学研修等を実施した結果、英会話力も向上している。また、大学での実験・実習に参加した生徒が、習得した技術の成果を地域の小学校等に還元するなど、地域貢献の意識も高まっている。</p> <p>また、「わかる授業」を展開し、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、AC 活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって、進路指導における国公立大学への合格者数は 3 年連続で 100 名を越え、所期の目標を達成できた。</p> <p>28 年度は紫西グローバルチャレンジ事業においては、大学の他に研究所や地元工場での実験・実習を加え、専門性・実践性を高めることが求められる。また、地元小学校等での実験ボランティアなど、学んだ成果を積極的に地域に還元していく必要がある。</p>	<p>確かな学力の定着と進路指導の充実</p>	<p>①グローバル人材の育成を目指し、紫西グローバルチャレンジ事業を積極的に推進する。</p> <p>②相互授業参観や職員研修会、先進校視察、予備校等での授業研修を通じて、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法を積極的に取り入れ、「思考力・判断力・表現力を伸ばす授業」を展開する。</p> <p>③日々の授業を大切にするとともに、土曜特別講座、夏季特別講座、春季特別講座、平常課外、AC 活動など、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行うことによって学習意欲を喚起し、生徒一人一人の可能性を引き出す進路指導に努める。</p> <p>④国公立大合格 100 名以上、難関国公立大学合格 20 名以上、難関私大合格 10 名以上を目指す。</p>	B
<p>28 年度は紫西グローバルチャレンジ事業においては、大学の他に研究所や地元工場での実験・実習を加え、専門性・実践性を高めることが求められる。また、地元小学校等での実験ボランティアなど、学んだ成果を積極的に地域に還元していく必要がある。</p>	<p>規律ある生活習慣の確立と人権尊重の精神の涵養</p>	<p>⑤学校中に響き渡る元気な挨拶を励行する。</p> <p>⑥自律の精神や自己抑制力の育成を図り、相手の立場に立って考え、行動できる人間の育成に努める。</p> <p>⑦カウンセラーとの連携を充実させると共に、全教職員がカウンセリングマインドに立った指導を行い、心的理由での転退学者数を前年比で半減させる。</p> <p>⑧基本的な生活習慣の確立に努め、各学年皆勤者 140 名以上を目指す。</p> <p>⑨規範意識の高揚を図るとともに、制服の正しい着用や礼儀正しい態度を育成し、校則違反者 0 を目指す。</p> <p>⑩場を清め、心を清める活動を推進し、清潔な学習環境で落ち着いた雰囲気での学習ができる場の形成に努める。</p>	B
	<p>特別活動の充実とコミュニケーション能力の向上</p>	<p>⑪特別活動の活性化を通して生徒相互の融和を図り、より良い人間関係を構築する。</p> <p>⑫部活動は、学業との両立を図り、密度の高い練習を通じて、全国大会など県外大会出場を目指す。（1 年生の部活動加入率 90% 以上を目指す。）</p> <p>⑬学校行事の改善充実を図り、新たな伝統の継承に努める。</p>	A
	<p>広報活動の推進と地域との連携</p>	<p>⑭ホームページや学校パンフレット等を活用して積極的な情報発信を行い、「開かれた学校づくり」に努める。</p> <p>⑮学校説明会の充実に努めるとともに、中学校・学習塾等への訪問を効果的に実施する。</p> <p>⑯学校評議員会、PTA、同窓会等との連携を強化し、情報の公開に努める。</p>	A
	<p>いじめの未然防止と早期発見、早期解消の確立</p>	<p>⑰道徳教育や教育相談等を充実させ、いじめの未然防止と早期発見、早期解消に努める。</p>	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	多様な研修の機会を持つ。	教員相互の授業参観を実施し、授業の改善、向上を目指す。②	A	B <ul style="list-style-type: none"> 個々の教員の指導力の向上を目指し、研修を継続するとともに、研修の成果を共有する機会を多く設けて全体の指導力の向上を図る。 大学入試改革を視野にいれ、生徒が能動的協働的に学べる学習方法をさらに研究していく必要がある。 		
		各種の研修会に積極的に参加し、それを他の教員に伝達することによって、全体の指導力の向上に努める。特に新教育課程について調査、研究を深める。また、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法を取り入れるための校内研修を企画する。②	A			
	生徒の学習意欲を高め、自学自習を促す。	生徒の実態に即した学習指導方法の工夫改善を行う。調査や調査、提出物の点検、面談等を通して生徒の学習状況の実態把握に努めながら、興味や関心を高める指導を工夫する。②③	B			
		生徒の言語活動の充実を図りながら、考える機会を多く持たせることによって思考力や判断力、表現力を向上させる。①②③	B			
国語	家庭学習の励行を推進する。	日常生活において自学自習の習慣を確立させ、積極的に教科に対して向き合う姿勢を作らせる。与えられた課題に自主的に取り組ませる。③④	A	B <ul style="list-style-type: none"> 読書を励行し、生徒の語彙力や読解力の向上を目指す。 授業内容や指導方法について研鑽を積む機会を増やす。 入試に必要な学力を身につけさせるとともに、教養としての国語力を高めさせる。 新聞を有効活用し、入試小論文に対応できる力を早い時期から涵養する。 		
		定期テストや模擬試験の事後処理として、出来なかったところを確認し、また苦手分野を理解させ、今後の自学自習の目安を立てさせる。③④	B			
	進学に対応できる読解力・表現力の身につく授業を実践する。	生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばすため、グループワーク、ディベートを授業の中で積極的に取り入れる。②	B			
		年間計画に基づく計画的な授業を実践し、生徒に入試に必要な実力を付けさせるとともに、教養としての国語の力を高めさせる。③④	A			
		読書環境を整える。朝のH・R前の読書時間を学年全体の指導として確保する。③⑥	B			
		公開授業、職員研修会、予備校等での授業研修を通じて、教員側も授業内容や指導方法について研鑽を積み、授業改善に努める。②	A			
	地歴・公民	わかりやすい授業、興味関心を喚起する授業を行うと共に新課程に対応した教科指導に努める。	新聞、映像、副教材等を有効に活用し、わかりやすさを心がける。また、生徒の進路希望及び新課程に対応した授業を実践する。②③		A	B <ul style="list-style-type: none"> 教科書内容増や新課程に対応した教科指導を工夫する。 各種研修会等へ参加し、授業へフィードバックしていく。 進路情報に対応した教科指導を行う。
			授業担当者がお互いに授業を見学し、研究協議などを行う。②		B	
			各種研究会に参加し、授業内容へのフィードバックに努める。②		B	
			生徒の能動的な授業への参加を取り入れた学習法を工夫する。②③		B	
一般教養としても役立つ内容を盛り込む。		時事的内容を盛り込み、学習内容を身近なものになるように努める。②③	A			
		小論文や論述問題にも対応できるように努める。③④	A			
授業開始と終了の際のメリハリをつける。	生徒の授業準備などが速やかに行われるように指導する。⑧	B				
教科	基礎学力の向上を図る。	授業の開始と終了時刻を厳守する。③⑩	A	A <ul style="list-style-type: none"> 問題演習の時間を確保する。 新課程で加わった内容について、授業を工夫する。そのための研修にも積極的に参加する。 学年、教科を超えて授業公開などを利用し指導技術を向上させる。 		
		年間学習計画に沿うよう交換、補填で授業時間の確保に努める。③④	A			
		章末テスト等を利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは、補習を実施する。③④	B			
		学習内容を定着させるため、休み時間、放課後等に質問を受ける体制を整える。③④	B			
	家庭学習習慣の定着に努める。	課題を実施し、家庭学習の習慣をつける。④	A			
	自ら学ぶ意欲を育めるよう、授業の改善に努める。	授業終了後に指導内容を点検し、次の授業改善に活かす。③	A			
	学習実態調査に基づき、生徒の実態に即した指導法を工夫改善する。特にグループワークやグループディスカッションなど主体性のある授業を展開する。②③	B				

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教科	数学		学年を超えて教科内で指導内容を話し合い、授業公開を利用して、授業内容・指導法を研究する。②	B	<ul style="list-style-type: none"> ・専門理科の演習時間を確保する。 ・基礎力の身につけていない生徒に対しての指導を充実させる。 ・保健の授業時間を確保する。 ・保健における単元を精選し年間計画を再構成する。 ・体育実技の取扱い方について検討する。 ・天候不順時の競技種目を検討する。 ・体力テスト記録の向上のための補強運動を更に行っていく。 ・音楽選択者の中でも特に優れた能力を持つ生徒の卓越性をさらに伸ばすことができたり、その卓越性を他の生徒の学びに生かすことができたりするような、より深く柔軟な学びが実現できる授業をデザインする。
	理科	分かりやすい授業、興味関心を喚起する授業を提供する。	時事ニュースや最先端の研究テーマを取りあげ興味関心を喚起する。②③	A	
			教材・発問の工夫や実習助手の協力による実験の実施、更に効果的なコンピュータを活用した授業を展開する。③	B	
			資料集を活用し、身近な自然現象に関連をもたせる。②③	B	
		自然現象に関する問題提起をし、理学的な思考や発想を身につけさせる。	生徒同士での話し合いやグループ活動などを活用して、主体的・能動的に取り組める授業づくりを行う。②	B	
			単元ごとに関連した実験観察を実施し、考察力を養う。①②	A	
			進学に対応できる表現力・理解力の身に付く授業を目指す。	受験頻出問題を単元ごとに取り込み、演習・解説を実施する。④	
	生徒個々の習熟度に応じた指導をする。	理科に関連する研修へ積極的に参加し、各自研鑽に努める。②	A		
		課外の実施、学習内容の深化のため適宜質問応答の時間を設ける。②④	A		
	保健体育	保健の教科書・ノートにそった授業を展開する。	単元目標にそった授業計画を毎時間立案出来るようにする。①③	A	
			授業を通じ健康観や人生観の向上を図る。	資料や視覚教材などを活用し、グループ学習なども取り入れた授業を実施する。①②	
		現代社会の中で心身共に健康に生きる為の知識の習得に努める。	生涯を通じた健康作りの基礎を身につけさせる。②	B	
			保健ノートのとまめの問題を定期的に点検し、確認テストを行う。②	A	
		基礎体力の向上を図る。	年度始めに各学年とも補強運動や体づくり運動の時間を設ける。②⑤⑪	B	
ゲームの進め方を工夫し生徒の運動量を確保する。②			A		
種目ごとの技術の向上を図り、スポーツの楽しさを味わい運動習慣の定着に努める。		各種目毎に経験者をグループ内に配置し、高い技術に触れる。②	B		
		バランスを考えたグループを作り、全員が楽しめるゲームができるようにする。⑪	B		
スポーツを通してルールを守る習慣を定着させる。	ゲームにおいて互いに審判を経験することで、ルールを覚え、各競技の楽しさを知る。②	C			
音楽	学習する題材を精選してカリキュラムの組織化を行うことにより、生徒が音楽についての学びを深められるようにする。	今次学習指導要領への変遷背景や本校生徒の実態に加えて、各大学が求める人物像について深く知った上で、大学教育に密なつながりをもつ授業を展開することにより、進学校の特色を生かした音楽的教養の高い生徒を育てる。①②③④	B		
		生徒の学びを授業の中心に据え、「より少なく学ぶことが、より多くを学ぶこと」との視座から授業を構成する。②③	A		
	授業を「生徒が見失われる場所」ではなく「生徒が見出される場所」として位置づけることにより、生徒が学習者としてお互いを尊重し合えるようにする。	対話的な応答関係にもとづく授業を行い、生徒が自分の「居場所」を実感できるようにする。⑤⑥⑦⑧⑨⑩	A		
		テキストに根拠をおいた音楽的な感受に裏づけられた独創性を高く評価する。②③	B		
	仲間と共に協同的に文化や新しい価値を創造する過程を大切にし、生徒がその喜びを実感できるようにする。	「主題設定－探究活動－表現発表」という螺旋構造による授業形態を組織し、グループや学級単位での学習活動を多く展開する。②③⑥⑦	B		
	年間を通じた学習成果の発表の場として、校内第1学年合唱コンクールを開催する。⑪⑬⑭⑯	A			

※評価基準 A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	美術	授業研究に取り組み、指導法の工夫、改善を図る。	豊かな想像力や感受性を養うため、個別指導に重点をおき、個性を尊重した指導を行う。③⑩	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・発想しやすく、構想をしっかり練られる授業づくり。 ・表現したいことを形にする支援の徹底。 ・鑑賞する時間を十分にとる。
			自画像表現を通して、観察力を養い、自分と向き合う時間を作る。③⑩	A		
			鑑賞教育の充実を図り、文化や歴史への興味を深めさせる。①	B		
		生徒一人一人の進路希望の実現を目指す。	美術系大学の進路希望者に対して、デザインやデッサンなどの実技試験の対策を行い、進路希望の実現を目指す。③	A		
			放課後も時間を設けて、指導を徹底する。③	B		
	英語	授業時間を大切にす。	授業を公開し、授業内容・方法等について教科内で研究協議する。②	A	B	
			生徒がコミュニケーション能力を付けられるよう、指導法を研究・工夫する。②③	B		
		指導力の向上を図る。	音読やリスニングも多く取り入れ、学習内容の定着を図る。①②	A		
			多くの生徒に英語で発表する場を与え、主体的に授業に取り組ませる。①	B		
			提出物等も成績に加味し、学習に取り組む態度を向上させる。②③	A		
		授業や家庭学習に主体的に取り組む意欲を育てる。	ノート等を提出させ、生徒の家庭学習状況や理解度を把握する。③	B		
			小テスト等で学習の理解度を把握し、必要なら補習等を実施する。②④	B		
生徒の学習状況を把握する。		授業を公開し、授業内容・方法等について教科内で研究協議する。②	A			
	生徒がコミュニケーション能力を付けられるよう、指導法を研究・工夫する。②③	B				
家庭	学習意欲を高める授業を展開する。	実験・実習・観察・ロールプレイング等、多様な方法授業を実施する。③	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間を確保し、多様な授業を展開する。 ・四観点を意識したワークシートを作成し、思考力・段取り力・解決力をつける。 ・学習環境の整備をし、安全安心な実験実習を行う。 	
		家庭生活に関する新聞の切り抜き年10回実施し、小論文の意識付けをする。③④	B			
	課題解決力を育てる。	四観点を意識したワークシートを作成し、考えを表現させ記入した分を点数化する。③	A			
		ホームプロジェクトを実地し、日常生活の問題点・改善点を認識させ、問題解決力つける。③⑥	A			
	環境整備に努める。	グループ実習においてタイムテーブルを作成させ、実験実習の時間を有効利用できるようにする。③④	B			
		学習環境を整え、安全な実験・実習を行う。⑩	A			
情報	座学や実習を通して、生徒の「情報活用力」、「情報を科学的に理解する力」、「情報社会に参画する態度」の三つをバランスよく養う。	情報社会の現状や仕組みについての知識を習得させ、確認する。②⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・設備を上手に活用しながら、分かりやすく説明し生徒のレポート作成を支援する。 ・実習について検討する。 	
		情報活用や情報モラルの知識・理解をレポート等により確認する。②⑥	A			
		実習は内容ごとにワークシートを作成し、終了後に提出させる。②⑥	B			
		座学については考査、実習についてはレポートの提出により、総合的に評価する。②⑥	A			
教務	特色ある教育課程の編成及び運営に努める。	各学年・各教科・各校務部との連絡調整を行い、将来を見据えた、より良い教育課程や時間割の編成や運営に努める。①②	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業補填が完全に埋まらない時がある。埋まらない時は、授業担当者が責任を持って、授業交換等の措置を取る必要がある。 	
	授業時間の確保に努める。	出張・年休などの際の振替・填補を必ず行う。また、自習時間をなるべく作らないようにし、自習時間を4%以下とする。③	B			
		毎日の日程を調整し、授業の開始と終了時刻を厳守する。③	A			
		学校行事や授業日程が特定の曜日・時間に偏らないようにする。③	A			
		時間割変更などに関して、全職員と共通理解をはかり、毎日の適切な時間割を立案する。③	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	各校務部・各学年・各教科などとの連携を密にし、円滑な学校運営を図る。	各校務部・各学年・各教科などとの連絡を密にし、各行事の日程や内容などの情報収集に努め、その円滑な運営や改善を図る。⑪	A	A ・学校行事等が特定の曜日に偏らず、なおかつ各教科の授業時間数のバランスが崩れないように、更に留意する必要がある。 ・観点別学習状況評価が、生徒の学習実態を反映するように更に工夫する。 ・近隣中学や地域へ、学校の取り組みを正確に発信し、理解を得られるように工夫する。
	定期考査などの円滑な運営を図る。	定期考査・到達度テストなどの企画立案、時間割の作成とともに、円滑な運営に努める。③	A	
	教育活動の公表に努め、生徒及び保護者とのコミュニケーションの向上を図る。	各教科との連絡を密にし、観点別学習状況評価の円滑な実施を図る。②③	B	
		欠席者の扱いを明確にし、追考査等の措置を取る。③	B	
		ネットワーク管理部との連携により、館一メールやHPを利用し、行事計画などの情報を保護者などに連絡する。⑭	A	
学校案内やシラバスの作成を通し、目指す学校像等を地域や中学校に広く知らせていく。⑭⑮	B			
生徒指導	心の教育の充実に努める。	挨拶の励行とマナーアップの推進に努める。特に挨拶については、生徒指導部だより等で呼びかけるとともに、さわやかマナーアップ週間の登校指導と連動させ継続的に指導していく。⑤⑥	B	A ・挨拶が出来る生徒は増えているが、生徒会や部活動を中心にあいさつ運動を呼びかけていきたい。 ・いじめに関しては大きな問題は無かった。今後もいじめ問題が起きないように、全職員で生徒の心の指導にあたる体制づくりを整えたい。 ・道路交通法の改正もあり、自転車の安全な運転について、日ごろから注意喚起していきたい。 ・貴重品の自己管理の徹底を呼びかけていきたい。
		保護者には入学予定者説明会・入学式後の保護者懇談会・三者面談時などを利用して礼儀やマナーの指導を呼びかける。生徒には毎月の生活目標を示したプリントを発行して励行を促す。被害調査を実施し、問題の予防や早期対応に努める。⑤⑥	A	
		スクールカウンセラーと連携し教育相談の充実に努める。教職員対象のカウンセリング研修会を実施し、全ての教職員で心の指導にあたる体制づくりをする。また、カウンセリング・サポート係が中心となって、心の問題を抱える生徒に早期に対応する。⑥⑦⑰	A	
	服装をきちんとさせるなど、規範意識の向上に努める。校則違反者0を目指す。	学年・担任・授業担当者による指導や呼びかけを徹底する。毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導、集会時における生徒への呼びかけを通して、服装をきちんと着用させ、規範意識の向上に努める。⑤⑥⑨	A	
		本校指定の白ポロシャツの定着及び指導を徹底し、生徒の夏のさわやかな服装を学校全体で実現する。⑨	A	
	基本的な生活習慣の確立に努める。各学年皆勤者140名以上を目指す。	欠席・遅刻生徒を減らすために、各学年、担任と協力体制をとって指導にあたる。遅刻の多い生徒に対しては、規定に従い生活を見直す機会を設ける。⑧⑩	B	
		毎月実施するさわやかマナーアップ週間の登校指導などにおいても、時間の厳守を呼びかけ、遅刻生徒の減少に努める。⑤⑧	A	
	安全で有意義な学校生活の実現に努める。	登校指導、自転車・バイク点検の際に、交通マナーアップなどの安全指導を実施する。⑥⑨	A	
		教室を離れる際は、貴重品袋の利用を呼びかける。また、学年の協力のもと教室の施錠や自転車置き場の巡回も必要に応じて実施する。⑨⑩	B	
		交通安全委員を中心にPTA・警察・地域社会と連携しながら交通安全キャンペーンやバイク講習会を実施する。⑤⑨⑰	A	
ケータイ・ネットの安全利用や薬物乱用防止教育の充実に努める。	ケータイ・ネット安全利用を呼びかける。薬物乱用防止講習会(1年)を実施する。また、集会時においても危険性を訴えていく。⑥⑨	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	各学年と連携し、キャリア教育の充実を図り、生徒自身の主体的な進路選択を支援する。	生徒の進路希望動向を的確に把握する。 ③④	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が大学等の情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。 文書や情報の共有化を進め、業務の流れを明確化し、ノウハウの蓄積に努める。
		各学年で進路講演会を行う。 ③④	A	
		企業見学、大学見学会の実施や、オープンキャンパスへの参加を勧めることを通して、早期に進学等の目的が明確になるように促す。 ①③④	B	
		紫西プレカレッジを実施する。 ①③④	B	
		生徒が大学等の情報を身近に閲覧できる環境の整備に努める。 ③④	C	
	学習指導部と連携し、確かな学力の定着と一人ひとりの生徒の実態を踏まえた進路指導の充実を図る。	『進路の手引き』を再構成し、進路情報の効果的な発信に努める。③④⑭	B	
		国公立大合格 100 名以上、難関国公立大学合格 20 名以上、難関私大合格 10 名以上を目指す。 ①②③④	B	
		外部模試を効果的に実施する。 ③④	B	
		模試の結果を把握し、指導に生かす。 ③④	B	
		個別面談を数多く実施し、個に応じた柔軟かつ多様な指導を行い、生徒一人ひとりの自己実現を図る。 ③④	A	
教員の指導力の向上に資する。	文書や情報を共有化し、業務の流れを明確化する。 ③④	C		
	予備校等での授業研修や進学指導に関する研究会等に積極的に参加し、情報の収集と指導力の向上は図る。 ②③④	A		
		教員対象の大学見学会や進路報告会を実施する。 ②④⑧	B	
学習指導	各教科・各学年の学習指導方法を全体的視点からバランスよく調整する。	月別に各教科・学年の平常課外、週末及び長期休業中等の課題、小テストの回数を学年のホワイトボードで視覚化し調整を図る。各教科間の垣根を外し、生徒の実態に応じた課外の設定、課題の精選を促す。 ③④	A	<ul style="list-style-type: none"> 教科間、学年間のバランスを考慮し、さらなる学力向上を目指せるシステムを構築する。 課題の内容や分量を精選し、学力向上を支えるものを提供する。 生徒の多様な学力、大学入試の多様化に対応しうる学力を育成する。 よりシステムティックなAC活動を展開し、難関大合格者を育成する。 学力の現状を、模試の成績等をふまえて正確に把握し、情報を共有できるよう継続していく。さらに、その情報が日常の学習指導に反映できるようなコーディネートを目指す。生徒に対しても同様である。
		生徒の学習を効率化し、部活動等との両立を支援する。	部活動入部者に平等に課外の機会を与え、成績不振に陥らないように、顧問と連絡を取りながら、適宜、学習相談や補習を行う。 ③④⑫	
	模擬試験等の成績分析や生徒の学習環境の調査を通じて、学力向上支援策を講じ推進する。	各学年の模試結果分析会、毎月の自学自習時間調査（平日は学年＋2時間以上が目標）、年1回の学習状況実態調査のデータを有効に活用し、各学年・教科の数値目標を設定する。また、長期休業前に各学年用の「学習アドバイス」を編集・配付する。 ③④	B	
	授業公開や授業研究に取り組み、指導法の工夫改善を図り、指導力を高める。	6～10月にかけて、各教科に校内授業公開を実施する。公開授業を、教科内メンバーが参観し、意見交換の機会を設け、自己の指導法を振り返る。また、「学習指導マニュアル」を基に、新任者の指導力向上に資する。 ②	A	
	成績下位者の支援をし、全体の成績向上を図る。	各教科・学年の成績不振者対策を一元化し、定期考査事前指導を組織的に実施することにより、欠点者ゼロを目指す。 ③④	B	
	ACの意義と機能を検証し、全校の学習活動の活性化を図る。	模擬試験の結果等を踏まえ、「AC（アドバンスクラス）連絡会」を開催し、独自の目標及び活動内容を確立・実践する。更に、AC活動を全生徒に開き、学年全体の学力向上に寄与する。また、新任者用にAC説明会を開き、ACについての理解を深める。 ①③④	A	
	土曜特別講座及び平常課外・長期休業中の課外を組織的に行い、生徒の学習時間確保に努める。	土曜特別講座を実施する（年間10回以上）。 平常課外を実施する。 1年（9月から英数国を週1回ずつ実施） 2年（5月から英数国を、10月から理社を加えて週1回ずつ実施） 3年（4月から全科目を実施） 夏季休業中に特別講座を実施する。 1・2年（英数国10日間）、3年（英数国10日間、理社10日間）	A	

※評価基準 A：非常によいので努力を続ける B：よいので更に努力する C：ふつうだが今一步の努力である D：やや不十分で努力を要する

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
学習指導		春季休業中に特別講座を実施する。 1年(英数国4日間) 2年(文系:英国+日/世/数, 理系:英数+物/化/生, 4日間) ③④		
特別活動	特別活動を通して, 豊かな人間性を養う。	生徒会と執行部が中心となり, 生徒の自主的かつ充実した活動を増やす。 ⑪	A	A ・文化祭やクラスマッチにおいて生徒会と執行部が中心となり生徒が自主的な活動を行う。 ・すべての委員会の活性化を図る。 ・すべての生徒を部活動, 委員会, 執行部(有志の実行委員会)のいずれかには参加させる。
		各種委員会の活性化と充実した活動を目指す。 ⑪	B	
		年1回の芸術鑑賞会において, 本物の舞台芸術を体験させ, 心身の充実を図る。 ⑬	A	
	学校行事を充実させる。	全生徒・職員への連絡を周知徹底し, 体育祭への各自の積極的な活動を通して生徒一人一人のコミュニケーション力の育成とクラスの連帯意識を養う。 ⑪⑬	A	
		全生徒・職員への連絡を周知徹底し, クラスマッチへの各自の積極的な活動を通して生徒一人一人のコミュニケーション力の育成とクラスの連帯感を養う。 ⑪⑬	B	
部活動の充実を図る。	女子の運動部活動加入率を活性化させ, 部活動の加入率を80%にあげる。 ⑫	B		
環境衛生	健康教育を推進し, 心身ともに健康に生きるための知識と能力を育て, 健康に対する意識の高揚を図る。	風邪やインフルエンザなどの感染症の予防や啓発に努める。 ⑩	A	B ・避難訓練においては, 消火訓練時の消火剤を極力使用しない方向である。そのため, 水消火器を使用した, 今ひとつ臨場感に欠けていたため, 検討したい。 ・東日本大震災の教訓をふまえて, 防災に対する意識を学校全体で深めていきたい。 ・月1回の施設設備の安全点検が予定通り実施できなかった。
		性教育・喫煙防止教育・薬物乱用教育を, 外部講師を招聘し1年次に実施する。 ⑬	A	
		個別面談を実施し, 生徒の心の問題を解決する。また, スクールカウンセラーとの連携も密に取り, 落ち着いた状態で学習に臨めるようにする。 ⑦	A	
	健康で安全な学校環境の整備及び美化に努める。	月1回のペースで, 環境衛生部職員が校内を巡視し, 清掃用具の破損や不足を確認して, 清掃が滞りなく行えるように環境を整備する。 ⑩	B	
		避難訓練や・救助袋訓練を通して, 非常時にも冷静沈着な行動を取れるようにする。 ⑩⑬	B	
		年1回のクリーンアップ作戦を通して, 地域の美化対策に協力し, また清潔な環境整備の重要性も指導する。 ⑩⑬	A	
		毎日の清掃活動を指導し, 清潔な学習環境整備に努める。 ⑩	B	
	保健室の適正使用を指導する。 ⑦⑧	A		
図書	図書館の環境を整える。	展示・装飾を充実させる。「朝日新聞デジタル」の閲覧スペースを改善する。 ①④	A	B ・授業や課外活動等での図書館の利用を活発にすること。 ・図書館を利用する生徒数や本の貸出冊数を増やすこと。 ←(斜線) ※年度中に管理担当が移管
		配置レイアウトを工夫する。 ①⑩	A	
	図書館の利用率をアップする。	出前図書館の回数を増やす。広報活動のさらなる活発化を図る。 ①⑭	B	
		「読書会」を実施する ④	A	
		図書委員会の活性化を図る。 ⑥⑪	A	
	視聴覚関連の環境の充実	DVDソフトを充実させる。 ⑩	B	
	図書館利用者のマナー向上を図る。	職員・図書委員による呼びかけを行う。 ⑥	B	
	時習館の管理をおこなう。	清掃等を徹底する。 ⑥⑩		
図書の廃棄をおこなう。	適切な廃棄と補充をおこなう。 ⑩	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
渉外	PTA諸行事への保護者の参加率を高める。	P T A総会及び支部総会への参加率を 80%以上に高めるため、ホームページや館一メール等を利用して、広報活動を行う。P T A活動の内容を広報紙や、面談時の学年便り等を通して啓発する。⑭⑯	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ P T A総会が近隣の小中学校と重複しないよう調整する。 ・ 館一メールを有効利用する。 ・ スクールバスは、教務と教頭が窓口になる体制に移行する。 ・ 生徒指導委員会は、年 1 回 7 月実施ではなく、総会と間隔を開けて 10 月か 11 月に実施する。
	PTAの活動を充実させ、活動に対する保護者の意識高揚を図る。	校内外で開催される各種 P T A会合に積極的に参加し、多くの情報や資料を収集するとともに、その研修成果を実践できるように努める。②	A		
	学校と家庭の連携を図り、協力体制を深め、生徒の学校生活を充実したものにす。	充実した学習環境を築くため、保護者・職員からの要望や意見を集約し、その実現に向けて支援を行う。⑯	B		
		保護者・職員の情報交換を行い、共通理解の元に、生徒の生活上の特色や問題点を把握し、協力体制を確立する。⑥⑦⑯	B		
ネットワーク管理	生徒の進路希望実現のための情報共有と活用できる環境を整備する。	進路指導部と連携して大学情報等のデータ更新などサポートを心がけ、生徒の進路計画を立てやすくする。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 館一メールの登録・更新を推進する。 ・ ホームページの更新システムを改善する。 ・ サーバー等を整備し、個人データの管理を徹底する。 ・ プロジェクターの再設置。(天井吊り下げ式など)
	I C T環境を整備し、校務の効率化を図る。	各教室のパソコンの定期的な点検整備を行い、ソフトウェア・ハードウェアの更新を進める。	B		
		公文書等の処理システムの円滑な運用をサポートする。	B		
	個人情報および構内情報システムのセキュリティを確保する。	ネットワークに関わる情報の提供に努める。	B		
		外部記録媒体の管理をする。	B		
		成績処理用にクローズされた校内 L A Nを併せて整備し、管理する。	B		
	開かれた学校づくりを目指し、保護者や地域と連携を図る。	校内 L A Nのセキュリティ管理をする。	B		
メール利用による学校情報発信のための環境整備と P Rを図る。		B			
1年	学習時間の確保と効果的な学習方法を身につける	授業に集中して取り組ませ、55分の授業を有効に活用させる。①②③	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の心のケアを充実させる。 ・ 自分に合った学習の方法と習慣を確立する。 ・ 中下位層生徒の学力を向上させるため、生徒の学習のつまづきを早期にみつけるよう努める。 ・ 具体的な進路目標を早期に決定できるようにする。 ・ A C・S A C活動を充実する。 ・ 適切な進路情報を提供する。
		授業の予習・復習を重視させ、家庭学習 3 時間以上を確保させる。②⑧	B		
		朝の学習時間を有効に利用することで、学習量を増やし、自分に合った学習方法を身につけさせる。①②③	B		
	基本的な生活習慣の確立	挨拶の励行に努め、遅刻・早退・無断欠席などの指導を徹底する。⑤⑥	A		
		普段から服装・頭髪の指導を徹底し、正しい服装で授業に臨ませる。⑥⑨	B		
		清掃をきちんと行わせて、学習環境を整えさせる。⑥⑩	A		
	職業に関する理解を深め、進路への関心を高める	日々のクラスの活動を充実させ、友人関係の確立などを支えていく。③⑥⑩⑪⑰	A		
		HRにおける進路学習、企業訪問、個別面談などを通して、適正な文理選択及び進路選択につなげる。①③	B		
		A Cなどを活用することによって、高い進路目標を設定し、努力させる。①③	A		
	特別活動を通じて、リーダーシップを育む	部活動・委員会活動・学校行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図れるように指導する。①⑪⑫⑬	B		
生徒が生き生きと活動できるような学年行事を企画、実行していく。①⑬		A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
2年	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行させ、遅刻・無断欠席などの指導を徹底する。 ⑤⑧⑨	B	A ・生徒の予習復習の徹底。 ・生徒の現状と進路希望に添った課題・課題量の設定。 ・8:25からの自学の徹底。 ・授業終了から清掃までのスムーズな移行とメリハリの効いた放課後時間の活用。 ・教員間の進路情報の共有。 ・多様な生徒(生活及び学習習慣等の欠如や心の不安定性)も含めた進路指導。
		清掃を励行させ、快適な学習環境を維持する。 ⑥⑧⑩	A	
		教員は折に触れて、生徒の服装を整えさせる。 ⑥⑧⑨	A	
	基礎学力の向上	授業に対する予習復習を徹底させ、55分の授業を有効に活用させる。 ②③	B	
		生徒の学習スタイルを確立させ、家庭学習1日4時間を目標とする。 ②③	B	
		教員は課題を精選し、生徒の学力層に応じた指導を行い、全員の学力の伸長を期す。 ②③	A	
	進路目標の決定	生徒はHR・行事(大学見学・オープンキャンパス等)・体験学習等を通して、具体的な進路研究を行う。 ③	A	
		教員は面接や志望理由書の作成を通して、生徒の適性に見合った進路指導を行う。 ③	A	
		教員は新しい教授・学習法を研究し、入試制度の変更に対応する。 ②③	B	
		AC活動を活用し、生徒の高い目標への挑戦を続けさせる。 ③	A	
	コミュニケーション能力の向上	教員は配慮を必要とする生徒を早めに把握し適切な指導を行う。 ⑥⑦⑩⑫	A	
		生徒は学校の中堅として、部活や学校行事に積極的に参加し、コミュニケーション能力の向上を図る。 ⑥⑩⑫⑬	A	
生徒のボランティア行事への参加を奨励する。 ①⑥		B		
3年	基本的な生活習慣の確立	挨拶を励行させ、遅刻・無断欠席・無断早退の指導を徹底する。 ⑤⑥⑧	A	B ・進路指導への不安を取り除く心のケアを充実させる手が必要である。 ・複数回行われる分析会の目的を明確にする。(6月練習・各進路希望の共有, 9月推薦, 11月三者面談に備えて等)
		清掃を励行させ、学習環境を整える。 ⑧⑩	B	
		機会のある毎に生徒の服装を整えさせる。 ⑧⑨	A	
		周囲の協力により受験勉強が成立していることに気づかせる。 ⑥⑧	B	
	学習時間の確保と学習内容の充実	予習・復習を徹底させ、1日平均5時間の自学自習を確保させる。 ③④	C	
		授業に集中して取り組ませ、55分の授業を有効に活用させる。 ③④	B	
		生徒各自の学習スタイルを確立させ、進路希望の実現を目指す。 ③④	B	
	リーダーシップを養い、コミュニケーション能力の向上を目指す。	部活動、館力祭、クラスマッチを通して、最上級生としてのリーダーシップを発揮させる。 ⑪⑫⑬	A	
		学校行事に積極的に参加させることで、コミュニケーション能力の向上をはからせる。 ⑥⑩	B	
	進路意識を高める。	個別面談により、進路希望及び学習状況を把握し、個に応じた進路指導を行う。 ③④	B	
		進路講演会やオープンキャンパス等を通して、進路希望を実現させる。 ②③④	A	
		課外や小論文・面接指導など、個々の生徒に応じた指導を行う。 ②③	B	
志望校検討会を行い、学年間で進路情報を共有する。 ②④		B		